

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-499 改3
提出年月日	平成30年9月11日

日本原子力発電株式会社
東海第二発電所 工事計画審査資料
放射性廃棄物の廃棄施設
気体、液体又は固体廃棄物処理設備
液体廃棄物処理系
(床ドレン処理系)

(本文)

放射性廃棄物の廃棄施設

2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備

2.2 液体廃棄物処理系

2.2.2 床ドレン処理系

(2) ポンプ

- a. 廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ
- b. 床ドレンフィルタ保持ポンプ

(4) 容器

- a. 床ドレン収集タンク
- b. 床ドレンサンプルタンク

(7) 貯蔵槽

- a. 格納容器床ドレンサンプ

(8) ろ過装置

- a. 床ドレンフィルタ

(9) 主要弁

(10) 主配管

2.2.2 床ドレン処理系

(2) ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力（真空ポンプにあっては到達真空度），最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

			変更前	変更後	
名称			廃棄物処理棟 床ドレンサンプポンプ		
ポンプ	種類	—	うず巻形*1		
	容量	m ³ /h/個	<input type="text"/>	(11.9*3)	
	揚程*4	m	<input type="text"/>	(22*3)	
	最高使用圧力	MPa	0.28*5		
	最高使用温度	℃	65*5		
	主要寸法	吸込口径	mm	80*2, *3	
		吐出口径	mm	40*3, *6	
		コラム外径	mm	135*2, *3	
		高さ	mm	3905*3, *6	
	材料	ケーシング*7	—	FC25	
個数	—	2			
原動機	種類	—	誘導電動機*8		
	出力	kW/個	3.7		
	個数	—	2		

変更なし

- 注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「立軸多段うず巻ポンプ」と記載。
 *2：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
 *3：公称値を示す。
 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。
 *5：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち，「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。
 *6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-23図 ポンプ外形図 組立断面図（立軸型ポンプその1）」による。
 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。
 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

			変更前	変更後	
名 称			床ドレンフィルタ保持ポンプ		
ポ ン プ	種 類	—	うず巻形*1		
	容 量	m ³ /h/個	<input type="text"/>	(26.2*3)	
	揚 程*4	m	<input type="text"/>	(21.6*3)	
	最 高 使 用 圧 力	MPa	1.32*5		
	最 高 使 用 温 度	℃	100*5		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	80*3, *6	
		吐 出 口 径	mm	80*3, *6	
		た て	mm	105*3, *6	
		横	mm	525*3, *6	
		高 さ	mm	380*3, *6	
材 料	ケ ー シ ン グ*7	—	FC25		
個 数	—	1			
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*8		
	出 力	kW/個	5.5		
	個 数	—	1		

撤去

- 注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻ポンプ」と記載。
- *2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *3：公称値を示す。
- *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。
- *5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち、「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。
- *6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-27図 ポンプ外形図組立断面図（横軸型ポンプその3）」による。
- *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。
- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

(4) 容器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

		変更前	変更後		
名 称		床ドレン収集タンク			
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量	m ³ /個	<input type="text"/> (64.2*3)	変更なし		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*4			
最 高 使 用 温 度	℃	65			
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm		3400*3	
	胴 板 厚 さ*6	mm		<input type="text"/> (8*3)	
	鏡 板 厚 さ*8	mm		<input type="text"/> (9*3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm		3400*3, *9 (鏡板中央部内半径)	
				340*3, *9 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm		4.5*3, *9	
	出 口 管 台 外 径	mm		114.3*3, *7	
	出 口 管 台 厚 さ	mm		<input type="text"/> (6.0*3, *7)	
	入 口 管 台 外 径*10	mm		114.3*3, *7	
	入 口 管 台 厚 さ*10	mm		6.0*3, *7	
	入 口 管 台 外 径*11	mm		76.3*3, *7	
	入 口 管 台 厚 さ*11	mm		5.2*3, *7	
	入 口 管 台 外 径*12	mm		89.1*3, *7	
	入 口 管 台 厚 さ*12	mm		5.5*3, *7	
入 口 管 台 外 径*13	mm	114.3*3, *7			
入 口 管 台 厚 さ*13	mm	6.0*3, *7			
高 さ	mm	8073.5*3, *14			
材 料	胴 板*15	—		SM41A*16	
	鏡 板	—		SM41A*16	
個 数	—	1			
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—			

- 注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。
- *2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ 計算書および説明書」による。
- *3：公称値を示す。
- *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。
- *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
- *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- *7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- *9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-9図 床ドレン収集タンク構造図」による。
- *10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。管台符号は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-9図 床ドレン収集タンク構造図 ノズル表 H」を示す。
- *11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。管台符号は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-9図 床ドレン収集タンク構造図 ノズル表 J」を示す。
- *12：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。管台符号は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-9図 床ドレン収集タンク構造図 ノズル表 K」を示す。
- *13：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。管台符号は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-9図 床ドレン収集タンク構造図 ノズル表 M」を示す。
- *14：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7400」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-9図 床ドレン収集タンク構造図」による。
- *15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

		変更前		変更後	
名 称		床ドレンサンプルタンク		変更なし	
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量	m ³ /個	□ (64.2*3)			
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*4			
最 高 使 用 温 度	℃	65			
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm	4400*3		
	胴 板 厚 さ*6	mm	□ (10*3)		
	鏡 板 厚 さ*8	mm	□ (13*3)		
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	4400*3, *9 (鏡板中央部内半径)		
			440*3, *9 (鏡板隅の丸み半径)		
	屋 根 厚 さ	mm	6*3, *9		
	出 口 管 台 外 径	mm	114.3*3, *7		
	出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (6.0*3, *7)		
	入 口 管 台 外 径	mm	114.3*3, *7		
	入 口 管 台 厚 さ	mm	6.0*3, *7		
高 さ	mm	5540*3, *10			
材 料	胴 板*11	—	SM41A*12		
	鏡 板	—	SM41A*12		
個 数		—	2		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ 計算書および説明書」による。

*3：公称値を示す。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

- *9 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-10図 床ドレンサンプルタンク構造図」による。
- *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「4300」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-10図 床ドレンサンプルタンク構造図」による。
- *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

(7) 貯蔵槽の名称, 種類, 容量, 主要寸法, 材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名 称			-	格納容器床ドレンサンプ
種 類		-		ライニング槽
容 量		m ³ /個		26*
主要寸法	内 径	mm		5872*
	深 さ	mm		1730*
	ライニング材厚さ	mm		<input type="text" value="4.0"/> (4.0*)
材 料	ライニング材	-		SUS304
個 数		-		1
漏えい防止のための制御方法				-

注記 * : 公称値を示す。

(8) ろ過装置の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数

			変更前	変更後
名称			床ドレンフィルタ	
種類	類	—	たて置円筒形*1	
容量*2	m ³ /h/個		<input type="text" value="50"/>	(50*2, *3)
最高使用圧力	MPa		1.32*4	
最高使用温度	℃		90	
主要寸法	胴内径*5	mm	1100*3	
	胴板厚さ*6	mm	<input type="text" value="14"/>	(14*3)
	鏡板厚さ*8	mm	<input type="text" value="14"/>	(14*3)
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1100*3, *7 (鏡板長径)	
			275*3, *7 (鏡板短径の2分の1)	
	フランジ厚さ	mm	<input type="text" value="50"/>	(50*3, *7)
	水入口管台外径	mm	216.3*3, *7	
	水入口管台厚さ	mm	<input type="text" value="8.2"/>	(8.2*3, *7)
	水出口管台外径	mm	139.8*3, *7	
	水出口管台厚さ	mm	<input type="text" value="6.6"/>	(6.6*3, *7)
高さ	mm	3584*3		
材料	胴板*9	—	SM41A*10	
	鏡板	—	SM41A*10	
個数	—	1		

撤去

- 注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形圧力プリーコート式（四脚支持）」と記載。
- *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理流量（最大） 50 m³/h (68.1 m³/h)」と記載。
- *3：公称値を示す。
- *4：S I 単位に換算したもの。
- *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
- *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- *7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-1 廃液フィルタおよび床ドレンフィルタ」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

(9) 主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所

			変更前*	変更後
名称			G13-F129	変更なし
種類	—		止め弁	
最高使用圧力	MPa		0.52	
最高使用温度	℃		80	
主要寸法	呼び径	—	80 A	
	弁箱厚さ	mm	[Redacted]	
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	—		
	弁ふた	—		
駆動方法		—	空気作動	
個数		—	1	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	G13-F129 床ドレン処理系	
	設置床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 2.00 m	
	溢水防護上の 区画番号	—		RB-B1-8
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—	—	EL. 5.38 m 以上

注記 *：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変更前*	変更後
名称			G13-F130	変更なし
種類	—		止め弁	
最高使用圧力	MPa		0.52	
最高使用温度	℃		80	
主要寸法	呼び径	—	80 A	
	弁箱厚さ	mm		
	弁ふた厚さ	mm		
材料	弁箱	—		
	弁ふた	—		
駆動方法		—	空気作動	
個数		—	1	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	G13-F130 床ドレン処理系	
	設置床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 2.00 m	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—		EL. 5.38 m 以上

注記 * : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(10) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変 更 前						変 更 後							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材 料		
—						格納容器床ドレンサンプル 導入管 *4	0.52 0.76*5	105 200*5	89.1	7.6*2, *6	SUS316TP		
格納容器床ドレン サンプルスリット ～ 格納容器床ドレン 配管分岐点 *3	0.52*1	105	89.1*11	5.5*2, *11	SUS304TP*11	格納容器床ドレン サンプルスリット ～ 格納容器床ドレン 配管分岐点 *4	変更なし 0.76*5	変更なし 200*5	変更なし*6				
			89.1	7.6*2	SUS316TP				89.1	7.6*2	SUS316TP		
—						格納容器床ドレン 配管分岐点 ～ 原子炉格納容器 *3	0.52*1	105	89.1	7.6*2	SUS316TP		
—						原子炉格納容器 ～ 弁 G13-F129 *3	0.52*1	105	89.1*8, *9	7.6*2, *8, *9	STPT42*8, *9		
—						弁 G13-F129 ～ 原子炉棟床ドレンサンプル *3			0.27*1	79	89.1	5.5*2	STPT42
—						原子炉棟床ドレンサンプルポンプ ～ 床ドレン収集タンク *10	1.03*1	65	76.3	5.2*2	STPT42		
—						タービン建屋床ドレン サンプルポンプ ～ 床ドレン収集タンク *12			1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42
—						114.3*11					6.0*2, *11	STPT410*11	
—						76.3	5.2*2	STPT42			89.1	5.5*2	STPT42
—						114.3	6.0*2	STPT42	114.3	6.0*2	STPT42		

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
床 ド レ ン 処 理 系	*13 廃棄物処理棟 床ドレンサンプポンプ ～ 床ドレン収集タンク	1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42	変更なし					
				76.3	5.2*2	STPT42						
	床ドレン収集タンク ～ 床ドレン収集ポンプ	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし					
	*14 床ドレン収集ポンプ ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点	1.42*1	65	114.3*11	6.0*2, *11	STPT410*11						
				114.3	6.0*2	STPT42						
				1.32*1	90	114.3	6.0*2	STPT42	撤去			
	139.8	6.6*2	STPT42									
	*7 床ドレン収集ポンプ吐出管分岐点 ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	1.42*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	撤去					
				1.32*1	90	114.3						
	*15 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点 ～ 床ドレンサンプルタンク	1.32*1	90	139.8	5.0*2	SUS304TP	変更なし	撤去				
				114.3	4.0*2	SUS304TP						
			65	114.3	4.0*2	SUS304TP						
		-						1.42	65	114.3	4.0*2	SUS304TP
	*16 床ドレンサンプルタンク ～ 床ドレンサンプルポンプ	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし					
				114.3*11	6.0*2, *11	STPT410*11						

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
床 ド レ ン 処 理 系	*17 床ドレンサンプルポンプ ～ 廃液中和タンク入口管	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし				
				114.3	6.0*2	SUS316TP	—*18				
	*19 床ドレンサンプルポンプ 出口分岐点 (床ドレン収集タンク戻り) ～ 床ドレン収集タンク ～ 廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプ A ～ 床ドレン収集タンク 入口管合流点	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし				
				60.5	5.5*2	STPT42	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
				76.3	5.2*2	STPT42					
	76.3*11	5.2*2, *11	STPT410*11								
	廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプ B ～ 廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプ A 出口管合流点	1.03*1	65	60.5	5.5*2	STPT42	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					

注記 *1: S I 単位に換算したもの。

*2: 公称値を示す。

*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器床ドレンサンプ排出管 (格納容器床ドレンサンプから原子炉棟床ドレンサンプまで)」と記載。

*4: 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (ペDESTAL排水系) と兼用する。

*5: 重大事故等時における使用時の値を示す。

*6: エルボにあつては、管と同等以上の厚さのものを選定。

*7: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレン収集ポンプ吐出管より廃液収集ポンプ吐出管まで」と記載。

*8: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 11 月 12 日付け 51 資庁第 12241 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-1-5 液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書」のうち、「III-1-3-5 配管」による。

*9: エルボを示す。

*10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉棟床ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”吐出管 (原子炉棟床ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”より床ドレン収集タンクまで)」と記載。

*11: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*12: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「タービン建屋床ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”吐出管 (タービン建屋床ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”より床ドレン収集タンクまで)」と記載。

- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ吐出管（床ドレンサンプポンプ“A” “B”より床ドレン収集タンクまで）」と記載。
- *14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレン収集ポンプ吐出管（床ドレン収集ポンプより床ドレンフィルタまで）」と記載。
- *15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンフィルタより床ドレンサンプルタンク“A” “B”まで」と記載。
- *16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンサンプルポンプ“A” “B”吸込管（床ドレンサンプルタンク“A” “B”より床ドレンサンプルポンプ“A” “B”まで）」と記載。
- *17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンサンプルポンプ“A” “B”吐出管（床ドレンサンプルポンプ“A” “B”より廃液中和タンク入口管まで）」と記載。
- *18：当該ラインについては、主管管に該当しないため、記載の適正化を行う。
- *19：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンサンプルポンプ出口分岐管（床ドレン収集タンク戻り）より床ドレン収集タンク入口管まで」と記載。

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (14/30)

		変 更 前					変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 床ドレン処理系	ポンプ	廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ	B-1	Non	-		変更なし		-	-	
			床ドレンフィルタ保持ポンプ	B	Non	-		撤去		-	-	
		容器	床ドレン収集タンク	B-1	クラス3	-		変更なし		-	-	
			床ドレンサンプルタンク	B-1	クラス3	-		変更なし		-	-	
		貯蔵槽	-			格納容器床ドレンサンプ		S	-	-	-	
		ろ過装置	床ドレンフィルタ	B	クラス3	-		撤去		-	-	
		主要弁	G13-F129	S	クラス2	-		変更なし		-	-	
			G13-F130	S	クラス2	-		変更なし		-	-	
		主配管	-			格納容器床ドレンサンプ導入管		B-1	クラス3	-	-	
			格納容器床ドレンサンプスリット ～ 格納容器床ドレン配管分岐点	B-1	クラス3	-		変更なし		-	-	
			格納容器床ドレン配管分岐点 ～ 原子炉格納容器	B-1	クラス3	-		変更なし		-	-	
			原子炉格納容器 ～ 弁G13-F129	S	クラス2	-		変更なし		-	-	
			弁G13-F129 ～ 原子炉棟床ドレンサンプ	B-1	クラス3	-		変更なし		-	-	
			原子炉棟床ドレンサンプポンプ ～ 床ドレン収集タンク	B-1	クラス3	-		変更なし		-	-	
タービン建屋床ドレンサンプポンプ ～ 床ドレン収集タンク	B-1		クラス3	-		変更なし		-	-			

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (15/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 床ドレン処理系	主配管	廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ～ 床ドレン収集タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			床ドレン収集タンク～ 床ドレン収集ポンプ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			床ドレン収集ポンプ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	撤去	—	—	—
			床ドレン収集ポンプ吐出管分岐点～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	—	—	撤去	撤去	—	—	—
			床ドレン収集ポンプ吐出管合流点～ 床ドレンサンプルタンク	B-1	クラス3	—	—	撤去	変更なし	—	—	—
			床ドレンサンプルタンク～ 床ドレンサンプルポンプ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			床ドレンサンプルポンプ～ 廃液中和タンク入口管	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			床ドレンサンプルポンプ出口分岐点 (床ドレン収集タンク戻り)～ 床ドレン収集タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプA～ 床ドレン収集タンク入口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプB～ 廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプA出口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (30/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	その他	排気筒	主排気筒	C-1	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			非常用ガス処理系排気筒	S	-	-	-	変更なし	-	-	-	-

注記 *1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

*2：当該ラインについては、主配管に該当しないため、記載の適正化を行う。